

# 第6学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年11月10日(水) 第2校時  
 場 所 6年1組教室  
 指導者 教諭 渡邊 俊介

## 1 単元構想

単元名	町の未来をえがこう「町の幸福論-コミュニティデザインを考える」(東京書籍「新しい国語六」)			
単元の目標	(1) 情報と情報の関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 (2) 「町の幸福論」の文章全体の構成や要旨を手掛かりにして, 筆者は自分の考えを伝えるために, どのように論を進めているか, どのような事例や資料を用いて説得力を高めているかについて考えることができる。 (3) 「田島の未来について考え, 構成を工夫したり, 資料を活用したりして, 泗水東小の六年生へプレゼンテーションをしよう」という学習課題を明確にして, 粘り強く必要な情報を見付けたり, 積極的に表現を工夫したりしながら, 町の未来について考えたことをプレゼンテーションしようとする。			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 情報と情報の関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	① 「読むこと」において, 目的に応じて, 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり, 論の進め方について考えたりしている。(ウ) ② 「話すこと・聞くこと」において, 資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(ウ)	① 「田島の未来について考え, 構成を工夫したり, 資料を活用したりして泗水東小の六年生へプレゼンテーションをしよう」という学習課題を明確にして, 粘り強く必要な情報を見付けたり, 積極的に表現を工夫したりしながら, 町の未来について考えたことをプレゼンテーションしようとしている。	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)				
田島の未来について考えた事を伝えるために, 構成を工夫したり, 資料を活用したりしてプレゼンテーションをすることができる。				
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方		
田島の未来について考え, 構成を工夫したり, 資料を活用したりして, 泗水東小の六年生へプレゼンテーションをしよう。		文章全体の構成や要旨を手掛かりに, 筆者の論の進め方について考えたり, 文章と図表を結び付けて読んだりすることを通して, 言葉への自覚を高めること。		
習得させる用語	①プレゼンテーション ②事例 ③要旨	習得させる方法	①要旨の捉え方 ②資料の活用の仕方	
指導計画と評価計画(15時間取扱い 本時7/15)				
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	用語・方法の習得	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○教師のプレゼンテーションを聞き, プレゼンテーションをするために何を学ぶとよいかを考え, 課題意識を持つ。	用語①	★【態①】(ノート) ○プレゼンテーションで分かりやすく伝えるために何を学ぶとよいかを考え, 単元の見通しを持っている。
二	7	○序論部分を読み, 「コミュニティデザイン」の意味を読み取る。 ○序論と結論部分から筆者の主張を捉える。 ○本論部分を読み, 視点と事例, 使われている資料を捉えている。	用語②	★【思①】(ノート) ○「コミュニティデザイン」の意味を「人と人のつながり」という言葉に着目して考えている。 ★【思①】(シート) ○序論と結論を読み, 筆者の主張を捉えている。 ★【思①】(シート) ○「主体的に取り組むこと」「未来のイメージをもつこと」という二つの視点と三つの事例, どんな資料が使われているかを捉えている。
		○「町の幸福論」の要旨をまとめる。 ○筆者の論の進め方について考え, 構成の工夫をまとめる。 ○表・グラフについて, 資料の効果を考える。(本時) ○写真・図について, 資料の効果を考える。	用語③ 方法① 方法②	★【思①】(シート) ○序論, 結論における筆者の主張や二つの視点に着目して要旨をまとめている。 ★【思①】(ノート・シート) ○文章構成や要旨をもとに論の進め方を考え, 構成の工夫を考えている。 ★【思①】(ノート・シート・発言) ○本論1を読み, 筆者の伝えたい事と関連付けて, 表・グラフの効果について考えている。 ★【思①】(ノート・シート) ○本論1, 本論2を読み, 筆者の伝えたい事と関連付けて, 写真・図の効果について考えている。

三	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「田島の未来」について提案内容を考え、町づくりの取り組みについて調べる。</li> <li>○集めた情報を整理し、構成や使用する資料を考える。</li> <li>○プレゼンテーションソフトを使い、プレゼンテーションで用いるスライドを作成する。</li> <li>○自分たちが描く「田島の未来」についてプレゼンテーションをする。</li> <li>○学習を振り返り、分かったことやできるようになったことを振り返る。</li> </ul>	活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【思②】（シート）</li> <li>○グループで提案内容を考え、本やインターネット、パンフレット等で調べている。</li> <li>★【思②】（シート・ノート）</li> <li>○グループで情報を取捨選択し、構成や使用する資料を考えている。</li> <li>★【思②】（シート）</li> <li>○構成に沿って、発表内容と必要な資料を考え、スライドを作成している。</li> <li>★【思②】（プレゼンテーション）</li> <li>○聞き手を意識して、話し方や資料提示の工夫をしながらプレゼンテーションをしている。</li> <li>★【態①】（ノート）</li> <li>○自分たちのプレゼンテーションを振り返り、分かったことやできるようになったことをまとめている。</li> </ul>
---	---	---	----	---

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)	
<p>〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 「情報の扱い方に関する事項」</p> <p>イ 情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。</p> <p>〔思考力, 判断力, 表現力等〕</p> <p>「C 読むこと」</p> <p>(1) ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。</p> <p>「A 話すこと・聞くこと」</p> <p>(1) ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</p> <p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</p>	<p style="text-align: center;"><b>教材・題材の価値</b></p> <p>本教材は、「コミュニティデザイン」について述べた文章であり、序論・本論・結論の構成となっている。コミュニティデザインの必要性について序論部分で述べ、その実践の具体例が本論部分で述べられ、本論部分を受けて再度主張を結論部分で述べる双括型の構成である。本論部分は、「主体性」「未来のイメージ」という大きく二つの観点から、コミュニティデザインの事例を紹介している。児童が自分の町に目を向け、未来の姿を想像し、「人と人とのつながりを作る」ことから提案を考え発表する活動へつなげることができる。また、本教材文は、事例の説明の際に写真や表、グラフ、図など様々な資料が使われており、児童自身がプレゼンテーションを行う際の参考とすることができる。</p>
本単元における系統	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">1年 「いろいろな ふね」 説明の文章を読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2年 「ビーバー大工事」 知りたいことを本で調べる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">3年 「パラリンピックがめざすもの」 説明の文章を読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">4年 「くらしの中の和と洋」 調べたことを関係付ける</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">5年 「資料を見て考えたことを話そう」 考えが明確になるように話す 資料と関係付けて話す</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">5年 「和の文化を受けつぐ」 必要な情報を見つける</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">6年 「イースター島にはなぜ森林がないのか」 筆者の論の進め方をとらえる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">6年 「防災ポスターを作ろう」 図表やグラフを使う</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">6年 「町の未来をえがこう」 情報を関係付けて活用する プレゼンテーションをする</div>	

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

◇令和3年度全国学力・学習状況検査の結果から（14名）

問題の趣旨	本校正答率(%)	県正答率(%)	全国正答率(%)	全国との比較
資料を用いた目的を理解する （思Aウ）				
目的や意図に応じ、資料を使って話す （思Aウ）				
文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する（思Cア）				
目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける（思Cウ）				

■本単元の学習に関する意識の状況（人） 10月実施の意識調査の結果から（13名）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
国語の学習が好きか				
（好きな理由）	（好きではない理由）			
自分の意見を進んで発表しているか				
友達の意見を自分の意見と比べて考えながら聞いているか				
ペアやグループで話し合う時に、理由を尋ねたり、考えを確かめたりしながら話し合っているか				
読書は好きか				
単元のゴールを毎時間の授業で意識して学習しているか				
自分が調べた事をみんなの前で発表する際にどことなくふうをすればみんなが分かりやすいと思うか。				
泗水町にはどんな良さがあるか。				
泗水町にはどんな課題があるか。				

■考察

（資質・能力に関して）

### 3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

#### 〈視点① 指導事項と用語・方法の明確化〉

○本単元の指導事項は、①「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」及び②「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」である。

①を達成するためには、まず文章全体の構成や要旨を適切に捉える必要がある。「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習を振り返り、序論・本論・結論の意味を確かめた上で、「問い」と「答え」の関係や「では」「このように」「まず」「もう一つ」などの言葉、三つの事例に着目させて構成を捉えられるようにする。その際、「双括型」の構成であることをおさえる。要旨をまとめる際にも「イースター島にはなぜ森林がないのか」で学習したことを想起させ、まとめるようにする。文章全体の構成や要旨をもとにして、筆者の論の進め方について考えさせる。②については、筆者が説得力を高めるために用いている写真、図、表、グラフ、それぞれの資料の効果について考えさせる。要旨をもとに、何を伝えたいからどの資料を使っているのかを考えることを通して、児童がプレゼンテーションをする際にどんな資料を使うとよいか考える参考となるようにする。

○本単元で習得させるべき用語は、①「プレゼンテーション」②「事例」③「要旨」である。①「プレゼンテーション」については、単元の導入で教師が実際にプレゼンテーションを行った上で意味をおさえ、理解を確かなものとする。②「事例」については、「自分の考えをより具体的に説明するために挙げられた具体的な事柄や内容」であることをおさえた上で、「事例」「例」「例えば～」「～がそれにあたる」などの言葉に着目させ、三つの事例を見付けることができるようにする。③「要旨」については、「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習を想起させ、その意味をおさえる。

○本単元で習得させるべき方法は、①「要旨の捉え方」②「資料の活用の仕方」である。①「要旨の捉え方」については、教師が提示した条件に合わせて要旨をまとめさせ、自分がまとめた要旨を友達と比較しながら、どの部分をどのようにまとめていけばよいか理解を深められるようにする。「双括型」の構成であることをもとに、序論部分の主張と結論部分の主張に着目させる。なお、要旨をまとめる上で「コミュニティデザイン」の意味を適切に理解させる必要がある。「コミュニティ」とは「何らかの人のつながりによる共同体」と説明されているが、具体的にどんなものがあるかを児童から引き出し、そのような「コミュニティ」を作っていくことが「コミュニティデザイン」であることをおさえる。また、「まず」「もう一つ」という言葉に着目させることで、筆者はコミュニティデザインで重要なことについて「主体性」と「未来のイメージ」の二つの観点で論を進めていることに気付かせる。②の「資料の活用の仕方」については、本文とは違う資料を使った場合と比較させ、筆者がその資料を使った意図を考えさせることで、写真、図、表、グラフ、それぞれの資料の良さをおさえていく。要旨をもとに、筆者の伝えたい事に着目させ、なぜこの資料を使ったのかを考えられるようにする。

#### 〈視点② 学びがつながる「課題設定」〉

○単元の導入では、プレゼンテーションの意味をおさえた上で、教師が実際にプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションとは何かを聞き手として実感させる。プレゼンテーションをして分かりやすく聞き手に伝えるために、これから何を学ぶとよいかを考えさせ、単元を通した学習課題を設定し、見通しをもち主体的に取り組むことができるようにする。

○単元のゴールで行うプレゼンテーションは泗水東小学校の六年生に向けて発表するようにし、相手意識をもたせ、児童の意欲を高める。

○単元のゴールに向けて何が分かっている・できているのか、何をわかる・できるようになればよいか問いかけを行い、課題意識を高め、本時のめあてを共有する。

#### 〈視点③ 学びを深める「課題解決」〉

○ペア活動を適宜取り入れ、自分の考えを伝える場を確保するとともに、自分の考えと違う考えから学びを深めることができるようにする。自分ではなくペアの児童の考えを全体で発表するようしたり、二人で協力して与えられた話型に合うよう発表内容を考えるようにしたりすることで、単に自分の意見を伝えあうペア活動に終始しないようにする。

○別の資料を用いた場合と比較したり、資料のどの部分が本文と対応するのかを考えさせる発問や問い返しをしたりすることで、資料の効果を考えることができるようにする。

○前時までにまとめた要旨をもとに、筆者の伝えたい事を確認した上で、なぜ筆者はこの表・グラフを用いたのかを問うことで、資料を活用する際には、伝えたいことに合うものを選ぶ必要があることに気付かせる。

#### 〈視点④ 学びを確かなものにする「振り返り」〉

○単元のゴールに対して、分かったこと・できたことや今後単元のゴールに向けて学ぶ必要があることを考えさせることで、学びを確かなものにするとともに、次時以降の学習への意欲を高める。

#### 〈視点⑤ 目的のある ICT 活用〉

○単元の導入では、プレゼンテーションを行う際に、プレゼンテーションソフトで作成したスライドを見せながら行うことで、自分たちがどんなものを作ってプレゼンテーションをするのかを意識づける。

○単元の後半では、一人一台タブレット PC を使い、プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションに使うスライドを作成する。その際、共同作業で一つのスライドを複数人で作成できるようにスムーズに作業できるようにする。

○本時では、児童に渡したシートを電子黒板に映し出し児童の発表内容等をかき込むこんだり、資料を拡大表示したりすることで、どの部分について考えたり話したりしているのか視覚的に捉えられやすいようにする。

#### 〈人権が尊重される授業づくりの視点〉

○承認、賞賛、励ましの言葉をかけ、一人一人の発言を大切にす姿勢を教師自身が示すようにする。

4 本時の学習（7／15）

- (1) 目標 筆者の伝えたい事と関連付けて、筆者が用いている表・グラフの効果について考えることができる。  
 (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
	5分	1 新出漢字を学習する。	○漢字スキルを用いて、児童が主体的に進められるようにする。
みとおす	5分	2 本時のめあてをつかむ。 ①前時までの学習を振り返る。 ◇筆者は未来のイメージを持って住民が主体的にまちづくりに取り組むことが大切だと述べていたな。 ②単元のゴールを確認する。 ③本論1で使われている資料を確認する。  <b>【めあて】事例2では、なぜ表・グラフを使ったのかを考えよう。</b>	○要旨をまとめた事を想起させ、筆者の伝えたいことは何かを確認する。  ○単元のゴールを確認し、プレゼンテーションを見通して本時は資料の活用の仕方について学ぶことを確認する。 ○事例1は写真、事例2は表とグラフを使っていることを確認する。
もとめる	10分	3 筆者が表・グラフを使った意図を考える。 ①本論1を音読する。 ②写真ではなく、表・グラフを使った筆者の意図をペアで考える。 <b>筆者はなぜここで表・グラフを使ったのだろうか。</b> ◇写真では、筆者の言いたいことが伝わらないと思う。 ◇表では実施回数やグループ数が増えたことが分かるね。 ◇グラフを見ると来園者が増えたことが分かるよ。 ◇筆者は「住民が主体的に取り組むこと」が大切って言っていたな。	○筆者の意図を考えながら、音読名人を意識して読むようにする。 ○事例1では写真が使われていることから、事例2も写真でよいのではないかと問い、有馬富士公園の写真を提示する。 ○意図的にペアを組み、二人（または三人）で、協力して考えることができるようにする。 ○机間巡視を行い、難しそうな児童には、「筆者は（ ）を伝えたいから、（ ）が分かる表と（ ）が分かるグラフを使った」という文型に合うように、筆者が表とグラフを使った理由を考えさせる。
ふかめる	20分	4 筆者が表・グラフを使った意図を全体で話し合う。 ①ペアで考えたことを全体で共有する。  ..... <b>【期待される学びの姿】</b> ..... ●本文と資料の対応を考えながら読み、筆者の伝えたい事と関連付けながら資料の効果について、自分の考えを伝えている。 .....	○表とグラフからはそれぞれどんなことが分かるのかをおさえる。 ○教師は「写真でもよい」という立場で問い返し、児童の発言を促して筆者の意図に気付かせる。 ○「表だけ、グラフだけではダメなのか」と問い返し、筆者は、「グループ数や実施回数が増え『人のつながり』ができたから来園者が増えたこと」を伝えたいということに気付かせる。 ○表・グラフは具体的な数値が一目でわかるという良さがあることをおさえる。  <b>【具体の評価規準】思①</b> ○本論1を読み、筆者の伝えたい事と関連付けて、表・グラフの効果について考えている。 (方法：ノート・シート・発言)  <b>【到達していない児童への手立て】</b> ○机間巡視を行い、前時でまとめた要旨や読み取った筆者の二つの観点を参考にするよう声掛けを行い、筆者がここで伝えたいことを考えさせる。
まとめる	5分	5 本時のまとめをする。 <b>【まとめ】</b> 表・グラフを使うと（客観的なデータを一目見て分かるように示すこと）ができる。使う時には、伝えたいことに合うものを選ぶ。  6 単元のゴールに対する振り返りを行う。 ◇表やグラフの効果があった。次は他の資料の効果についても考えたい。 ◇何を伝えたいかが大切で、それを補うものとして表・グラフを使うという事が分かった。写真と図についても考えたい。	○児童の言葉で本時のまとめを行う。 ○児童がプレゼンテーション用のスライドを作成するときに参考となるよう、「資料の活用の仕方」シートに自分が使う時の視点でまとめるようにする。  ○単元のゴールに向けて、本時でわかったこと・できたこと、さらに学ぶ必要があることを書くようにし、次時以降の学習につなげる。

【板書計画】

「資料の使い方」シートに表とグラフについてまとめよう！

**まとめ**

筆者は、住民が主体的に取り組むことの大切さを伝えたいので、具体的な数値が一目でわかる表とグラフを使った。

**主体的に取り組んだ** ↓ **結果が出た**

↑ 来園者 ↑ 増

↓ 来園者 ↓ 増

**具体的な数値が一目でわかる！**

表・グラフ

筆者の伝えたいこと

住民が主体的に取り組むことが大切

地元グループの活動 (グループ数)

児童名

写真↓人数が増えたことが分からない。

表・グラフ↓実施回数やグループ、来園者が増えたことが分かる。


児童名

住民が主体的に取り組んでいることで来園者が増えたことを伝えられたから。

児童名

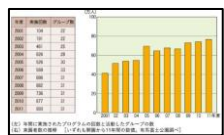
地元のグループの数や実施回数が増えたことで、来園者の数が増えたことを伝えられたから。

事例1




写真

事例2



表

グラフ



写真

11/10 (水)

町の未来をえがこう

「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」

単元のゴール

田島の未来を考え、構成を工夫したり資料を活用したりして、泗水東小の六年生へプレゼンテーションをしよう。

めあて

事例2では、なぜ表・グラフを使ったのかを考えよう。

資料を活用

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

①かき込むことで考えたり話し合ったりするところを焦点化するためにワークシートを映し出す。

②「写真でもいいのではないかと問い比較させるために、有馬富士公園の写真を映し出す。

①



②



有馬富士公園 野外コンサートの様子

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

本単元で働かせた見方・考え方（論の進め方・資料の活用）を生かして、資料を活用した文章を書いたり、資料を活用して自分の調べた事を発表したりする。